

開発教育協会/DEAR 大学FDプログラム のご紹介

2013年7月1日



組織の概要 (2012年度実績)

- 団体名 : 開発教育協会
- 英語名 : DEAR (Development Education Association and Resource Center)
- 設立年 : 1982年 (2012年で設立30周年)
- 代表者 : 岩崎裕保 (帝塚山学院大学教授/関西セミナーハウス開発教育研究会)
- 法人格 : 特定非営利活動法人 (2003年内閣府認証)
- 会員数 : 個人会員672名、団体会員44団体 (NGO/NPO等)
- 職員数 : 常勤2名、非常勤4名
- 年間予算 : 約43,400千円
 - <収入内訳> 会費・寄付金15% 助成金11%、自主事業33%、受託事業16%、前期繰越金25%
 - <支出内訳> 事業費30%、事務管理費(人件費含)34%、次期繰越金36%

開発教育とは？

世界で起こっている貧困・飢餓・紛争・環境破壊・人権といった問題は、日本の社会のあり方やわたしたちのライフスタイルとも深く関係しています。

また、日本にも同様の課題が存在します。

開発教育とは、子どもたちや広く市民を対象に「**知り・考え・行動する**」という視点で、身近なところから、その解決に取り組んでいくための教育活動です。

開発教育協会/DEARとは？

DEARは、1979年11月に日本で初めての「開発教育シンポジウム」が東京で開催されたことが契機となり、開発教育の普及推進に関心を寄せる個人や団体・NGOが1982年に設立したNGOです。

以来、30年間にわたり活動しています。

2004年には国際人権教材賞を受賞しました。



事業の内容

- 政策提言
- 国内ネットワーク (国際協力NGO、NPO、青少年団体、JICA等)
- 海外ネットワーク (アジア・欧州の開発教育NGO、成人教育NGO等)
- 調査・研究 (研究誌、研究集会)
- 情報収集・発信 (ウェブサイト、ニュースレター、MM、ML)
- 教材作成 (教材・資料を約30点発行)
- 研修・講座・ワークショップ開催
- 講師派遣 (学校、教員研修等へ年間約150件のプログラム提供)
- 相談



DEARの講師派遣実績

- 2012年度講師派遣実績
- 計80件、108回
- 派遣先：大学、学校（小・中・高）、教育委員会、自治体、企業、JICA、NGO/NPO、市民団体など



□ 大学への派遣実績

2010-12年度

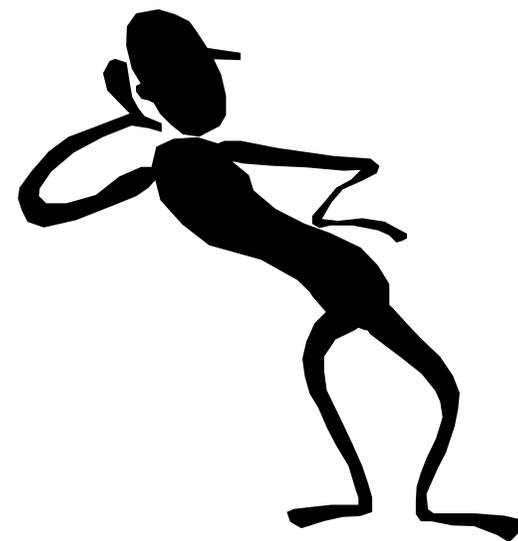
横浜市立大学、上智大学、立教大学、明治大学、立正大学、流通経済大学、明星大学、愛知淑徳大学、桜美林大学、長浜バイオ大学、龍谷大学、実践女子大学、聖学院大学、愛知淑徳大学、広島女学院大学等

- 内容：
 - ◆ 教員への研修
 - ◆ 学生への研修
 - ◆ コンサルテーション

大学教育で聞かれる問題点

■学生に見られる問題

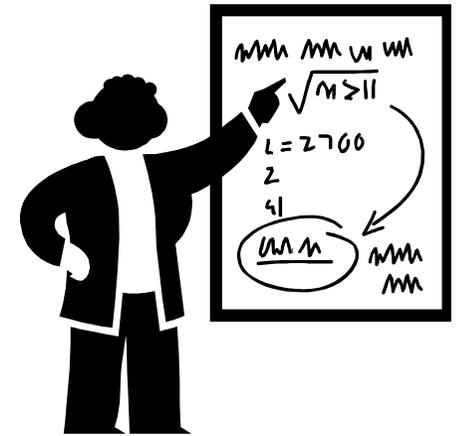
- ・学生に**元気がない**
- ・**学習意欲**が低い
- ・授業中**反応がない**
- ・大学に**途中で来なくなってしまう**
- ・**学生同士**で学ぶことができない
- ・**主体的に**学ぶことができない
- ・学生に**自信がない**



大学教育で聞かれる問題点

■ 教員・職員の悩み

- ・ 学生の**関心**が分からない
- ・ 学生がどのように**学ぶ**のか、が分からない
- ・ 今までの**すすめ方**ではうまくいかない
- ・ **アクティブラーニング**の方法が分からない
- ・ **クラスの規模**が大きすぎて、授業が困難
- ・ 多様な**手法**や**ツール**を知りたい
- ・ 多様な学生の**ニーズ**に対応しなければならない



問題解決のために！

DEARが提案する大学FDプログラム

■ねらい

1. 教職員が、**学習者主体の学び(アクティブラーニング)**を**支援**できるようになる
2. 教職員が、学習者中心の授業を実施するための**知識・態度・技能を学ぶ**
3. 教室や大学を学びやすい**学習環境に変える**

■特徴

1. **体験を通して**学びます
2. **継続的に支援**します
3. **次のステップ**を提案します

DEARが提案するFDプログラム

A. アクティブ・ラーニング

ファシリテーター研修

B. 学習環境づくり研修

C. その他



A. アクティブラーニング ファシリテーター研修

□ 目的:

- ◆ アクティブ・ラーニングについての理解
- ◆ アクティブ・ラーニングをすすめるファシリテーター(進行役)の知識・態度・技能を学ぶ
- ◆ 多様な学習方法、学生への働きかけの方法を学ぶ

□ 時間: 半日(3時間)~

□ 対象: 教職員

□ 人数: 20~40名

A. アクティブラーニング ファシリテーター研修

□ 内容例(1日コースの場合):

- ①オープニング: ルール作り、アイスブレイキング
- ②グルーピング: いろいろなグループの作り方
- ③ブレインストーミング: 学生とのコミュニケーション
- ④ロールプレイ: 学生の気持ちや考えを理解する
- ⑤解説: アクティブラーニング・ファシリテーションとは
- ⑥プランニング: アクティブラーニングをどう進めるか
- ⑦振り返り

多様な学習方法

ものの見方・考え方	手法
1. 全体像をとらえる	ブレインストーミング、連想図、イメージ図、構造図、ストーリー作り
2. 対比させて考える	賛成・反対、部屋の4隅、プラス・マイナス
3. 分類する	仲間さがし、ビンゴ、KJ法
4. 因果関係を考える	因果関係図、フローチャート、ウーリーシンキング、ウェビング
5. 優先順位を考える	ランキング、重みづけ、ジレンマ・カード、ポスターセッション、ディベート
6. 疑似体験で捉える	シミュレーション、ロールプレイ
7. 計画する	アクション・プランづくり、タイムライン、

教材・資料の提供



B. 学習環境づくり研修

□ 目的:

- ◆ 多様性が尊重され、誰もが学びやすい環境づくりの方法を学ぶ
- ◆ 学生の関心や状況を理解する
- ◆ 学生同士の学びを促進し、学習コミュニティを形成する方法を考える

□ 時間: 半日(3時間)～

□ 対象: 教職員

□ 人数: 20～30名

B. 学習環境づくり研修

□ 内容例(1日コースの場合):

- ①オープニング: ルール作り、アイスブレイキング
- ②仲間づくり: いろいろなグループづくり
- ③ブレインストーミング: 学びやすい学習環境づくり
- ④シミュレーション: 学生の気持ちや考えを理解する
- ⑤解説: アクティブラーニング、学習環境づくりとは
- ⑥プランニング: 学習者同士の学び、学習環境づくりをどう進めるか
- ⑦振り返り

学習環境づくり

重要な要素	内容
1. 安心して参加できる場づくり	ルール作り、学生への声掛け、自己開示、お互いに知り合う機会
2. 意見を引き出す	付箋に書いてから発表、ペアワーク→4人→8人→全体とステップを踏む、たくさん答えが出てくる質問をする
3. 学生同士の学びを促進する	学生の中で役割を決める(進行、書記、発表、ほめる役など)、他者の発表についてのコメントを習慣づける、グループ固定化を避ける
4. ファシリテーターとしての教員の役割	教員も学生と一緒に楽しみ、考える、授業のすすめ方を柔軟に変更、学生と一緒に授業をすすめる、学生に任せる
5. 学びを振り返る	学生が個人で振り返り、グループで共有する、教員も振り返る

各大学の状況にあったプラン提供

1

• インタビュー・問題の整理

2

• 大学訪問・関係者協議

3

• 研修・プランの提示

4

• 意見交換・プランの決定

5

• サービス提供

6

• 事後評価・今後の計画

例 1 N大学様の場合 (2010年度～)

- 1年目 : **アクティブラーニング・ファシリテーター研修初級編(1日コース)** → 教員がファシリテーターとして授業を持つ
- 2年目 : **ファシリテーター研修中級編(1日コース)** → 教員がファシリテーター、学生がピア・サポーターとして支援する
- 3年目 : **ピア・サポーター研修初級編(1日コース)** → 学生がより積極的にピア・サポーターとして支援
- 4年目 : **ピア・サポーター研修中級編(1日コース)**

例2 R大学様の場合(2011年度～)

- 1年目: アクティブ・ラーニングファシリテーター研修初級編(半日コース)→次年度から新入生オリエンテーションの導入
- 2年目: 参加型の新入生オリエンテーションプログラムづくり→教員への説明→オリエンテーションの実施
- 3年目: 新入生オリエンテーションへの教員の積極的参加



プログラム参加者の声

様々な学習方法を学べた。

やり方を変えることで、学生が参加しやすくなると思うので、とにかく試したい。

学生の立場に立ったロールプレイはとてもよかった。**学生の悩みや気持ちが少し分かるようになった。**これからの学生対応に活かしたい。

受け身ではなく**能動的・主体的に考え、発信することが参加型学習の中心**となっている。今回の学びはゼミでの学生のディスカッション、文献調査、インターンシップの事前事後学習などへも導入できる。

他の教職員と、**学生の対応について共有できたのは面白かった。**同じような意見も出たし、自分にはない視点もあった。

クラスサイズが大きくても**工夫次第で、学生の参加を促すことができる**ことが分かった。グループワークなどできることから始めたい。

ファシリテーター研修はいつも新しい発見がある。**ゼミの雰囲気は良くなっている**ので、それを支援できるように努力したい。

大学FDプログラム研修費用

費目	半日コース	1日コース	2日コース
プログラム 構成費	10,500円	10,500円	21,000円
講師料	55,650円	96,600円	154,560円
合計	66,150円	107,100円	175,560円
旅費・ 交通費	実費	実費	実費

* 価格は税込み価格

* 参加者の人数が30名以上の場合は、アシスタント費用を追加させていただきます。

* その他、プログラム内容やご予算に応じてご相談に応じます。

お気軽にご連絡ください

所在地:

〒112-0002 東京都文京区小石川2-17-41

富坂キリスト教センター2号館3階

Tel: 03-5844-3630 Fax: 03-3818-5940

<http://www.dear.or.jp>

開所時間: 平日10:00~18:00

担当者: 中村絵乃(事務局長)

E-mail: enakamura@dear.or.jp

